

令和6年度（2024年度）幼稚園評価報告書

園 名		宝塚市立 長 尾 幼稚園			
1 学校教育目標					
心も体も健やかな子どもの育成					
2 重点目標					
○ 主体的に生活する幼児の育成		○ 生命の尊さを大切にする幼稚園づくり		○ 安全、安心な幼稚園づくり	
○ 親子で育つ幼稚園づくり		○ 地域とつながり・人とふれ合う園づくり		○ 評価、改善のある幼稚園づくり	
3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）					
領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	
園運営	開かれた幼稚園づくり	○保護者や地域の方の教育力を活用し、ふれあいやつながりを大切にしながら、幼児の生活体験がより豊かに広がる工夫 ○家庭や地域への情報発信	A	○ 年間を通して、直接体験・感動体験に重点を置き、幼児の活動を豊かに広げることができた。園舎北側のお山での活動を遊びに取り入れたり、幼児の発達や興味関心に応じた野菜クッキング、焼き芋、餅つき、囲碁やこま回し、木接ぎ、英語、絵本読み聞かせなど、積極的に地域のみんなの先生や保護者ボランティア、小中学校とふれ合える機会を設けたりした。また、PTA主催の「人権コンサート」や中筋児童館の方による「ふれあいコンサート」を行う等、園・保護者・地域が手を携え園児たちに人とふれあう喜びや学びの推進につなげていくことができた。 ○ PTA 役員・保護者ボランティアによる図書の貸出し、保護者サークル「おはなしトトロ」を昨年度より回数を増やして実施し、園児と保護者のつながりを深めたり、園児の体験の幅を広げたりすることができた。 ○ 年間を通して、お話広場、ドキュメンテーションの配信、毎日のホームページの更新、参観やバスデートーク等を通して子どもたちに園の様子をお知らせするように努めた。	
	教職員の資質向上	○深い幼児理解と温かい支援 ○教職員一人一人が課題意識をもち、組織力を高めながら学び合う ○保育カンファレンスの充実 ○ 学びの可視化	A	○ すべての職員が笑顔と挨拶を大切にし、一人一人と丁寧に向き合うことを心掛けて日々の保育にあたった。 ○ 教師が常に新たなことに挑戦する気持ちや学ぶ意欲、保育を楽しむ気持ちをもち、保育、研究に取り組んだ。幼児の意欲を引き出すための環境を考えた教材開発や職員間でのカンファレンスを基に、幼児ひとりひとりの学びに必要な環境について保育の視点や課題を明確にした保育実践に努めた。 ○ 今年度はICTを活用した新たなカンファレンスの方法を取り入れ、全職員で効率的に幼児のことを語れるように工夫した。 ○ ドキュメンテーションを作成し、幼児一人一人の学びを可視化できるように努めた。	
4 評価項目ごとの学校関係者評価					
○ 地域の特色である木接ぎやだんじり、伝統文化であるこま回し、囲碁、薪を使つての焼き芋や餅つき、窯で炊くご飯、英語等取り組まれており、人とのつながりを大切にし、心のふれ合いを重視していることが伝わった。どの活動においても、子どもが意欲的に活動していることが大変評価できる。また、このような取り組みについて、保護者からの評価も高く理解を得ている。火を取り扱うことでは防災教育ともつながり、とても貴重な取り組みである。地域の力を活かした人とのつながりを大切にした取り組みは素晴らしい。 ○ サークル活動を通して、子どもたちとかかわる回数も増え、とても楽しく有意義だった。 ○ 毎日HPの更新で外部へ発信し、ドキュメンテーションや連絡帳で保護者へと発信し、園での様子や楽しさが分かり安心できた。園の温かさやよさ、保育の中で大切にしていることがよく伝わっている。今後も続けていただきたい。					
○ とにかく先生たちが明るく元気で、いつも笑顔である。子どもたちひとりひとりを丁寧に見て、援助してくれているので、安心してお任せできた。 ○ 教師の連携ができており、日々の保育や行事を見ても、常に新しいことに挑戦し、クラスの枠を超えて、みんなで協力して対応していると感じる。また、熱心に教育活動や研究に取り組まれ、カンファレンスに取り組まれていることに驚く。先生たちの熱量と頑張りに頭が下がる。 ○ 新しいカンファレンスの仕方を取り入れ、みんなが参加できるような取り組みを先進的にされていることが素晴らしい。そのことをどんどん発信していけるとよい。					

	危機管理体制の整備	○危機管理マニュアルに沿った実効性の高い訓練を実施 ○健康安全な生活習慣を身に着けるための環境の工夫	A	○ 新たにトランシーバーを導入し、園内だけでなく園外でも、教師間ですぐさま情報共有ができるようにし、安全対策を強化した。 ○ 安全・防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で（大雨時、土砂災害発生時、地震・火災発生時、園内外不審者侵入時、津波浸水）避難訓練を定期的実施した。小学校への2次避難、垂直避難、合同訓練を実際に行い、地域と連携した避難訓練に継続的に繰り返し取り組んだ。 ○ 様々な感染症への対応として、消毒・手洗いうがいの徹底、必要な時はマスクの着用など継続して実施している。また、保健衛生においても発達段階に応じた手洗いうがい・咳エチケット・トイレトレーニング・食育・睡眠の指導等、毎月各種発達に応じた保健指導に努めた。	○ 危機管理意識が高く、起こりうる可能性のある様々なことを想定し、全職員が一丸となって取り組まれていることが大変評価できる。 ○ 家でも子どもが「命は1つ！自分の命は自分で守る！」と言っている。小さな子どもだが、繰り返し大切なことを教えていただいている。 ○ 小学校までの2次避難では、3歳児の手を5歳児が引いて逃げていた。日頃からの自然な縦割りのかわり、このような場面でも見られ、素晴らしいと感じる。 ○ 保健指導を細やかに実施されており、基本的生活習慣を身に付けていただけている。
	子育て支援の充実	○ 家庭の教育力向上をめざし、「親育ちの場」としての機能の充実 ○地域の未就園児親子の育ちを支援するための保育の場を提供	B	○ 運動会や秋フェスタ、生活発表会等の行事、お話広場、連絡帳、ドキュメンテーション、バースデートーク、子育て相談、お便り、個人懇談、ホームページなどで、個や集団の育ちについて発信したり保護者と共に子育てについて考えたりすることができた。 → 担任と保護者が直接話ができる時間を持ちにくかったようなので、降園後等に気軽に話せる時間を確保するなど、工夫が必要である。 ○ 未就園児教室や毎日園庭開放を実施した。異年齢でもふれ合えるように未就園児親子と在園児との交流遊びを取り入れたり、支援員による講話会を開催したりして、子育ての不安に寄り添う機会を設けた。今後も安心できる遊びの場、人とふれ合える場の提供に努める。 → 在園児家族以外の未就園児が少ない。ポスターの掲示なども行っているが、掲示場所を拡大するなど、周知方法を工夫する必要がある。	○ お話広場をしたり、みんなで並んで挨拶をして降園したりするなど、様々な工夫をしてくださっていた。個人降園でなくなった分、声をかけにくくなった保護者もいるのかもしれない。個別に話せることを伝えられるといい。 ○ どの先生に声をかけても、きちんと対応してくれるところが素晴らしい。 ○ 園庭開放には、年齢を問わず遊びに来られる雰囲気があるため、小さな子どもたちの遊び場になっている。人数が少ないとのことだが、ポスターやチラシを作られたり、HPでも知らせ、問い合わせに丁寧に答えたりして、園ができることは十分されている。園の努力や頑張りだけでは変えられる問題ではないと思われる。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○保育の基礎・基本を大切にし、遊びを通した幼児期にふさわしい保育内容の工夫 ○3・4・5歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成	A	○ 本園の研究テーマでもある、幼児自ら興味をもち「やりたい」と心を躍らせ、主体的に遊べる環境構成や援助を工夫した保育に努めた。自然体験や生き物とのふれあいなど感性を揺さぶる遊びや、外国にルーツをもつ子ども、のびのびと表現できるような遊びなど、子どもの想いを形にするべく、教師が柔軟に考えた保育を心掛け、様々な視聴覚機器を遊びの中に取り入れたことで、自分の気持ちを豊かに表現できる力につながっている。また、自分でめあてを決めて取り組む活動や苦手意識を克服する経験を重ねたことで、達成感を味わうことができ、子どもの自信につながった。 ○ 異年齢が混ざって遊びを展開するなど、縦のつながりを意識した保育実践を取り入れたことで、憧れや思いやりの気持ちをもち、友達とのつながりも深まっている。	○ いつも子どもに活気があり、遊びに夢中になっている姿が見られた。子どもが主体的に遊びに取り組んでいることや、教師の本気やパワーが感じられた。特に、「子どもに考えさせる」「意欲を引き出す」ことに力を入れられていることが伝わった。また、あきらめずに取り組もうとする気持ちがあふれていた。ひとりひとりの自信や意欲につながっているのがありがたい。 ○ 友達や相手を思いやる気持ちが育まれている。ときめきタイムでは、自分のことばで思いを語ることができる幼児が増えた。 ○ 3学年の全園児が生活の中で自然な形でかわわれていることがよい。

教育課程	人権教育の推進	○幼児期にふさわしい人権意識の育成 ○命の尊さを感じられる保育内容 ○教師自身の人権意識の向上	B	○ 日常の遊びや生活の中で起こる問題に(言葉の暴力、仲間外れ、決めつけ等) 教師が気づき、子どもが振り返り考えられるような支援に努めた。教師間でその都度問題を共有し、人権意識を高めることができた。また、常に命の尊さについて考えられるよう取り組みを進めている。 ○ 阪神同教での実践発表や、園内外の研修会等に参加し教師自身の人権意識を高め自らの言動を振り返ると共に差別を見逃さないように努めた。また、改めて不適切保育防止の観点から、職員の人権擁護のセルフチェックを実施し、子どもを尊重する保育に努めた。 ○ 山手台中学校・中山五月台中学校ブロックの人権研修会は、全職員が学び合える機会となった。今後も、めざす子ども像に向けて、幼小中が一貫して取り組んでいく。	○ 日々の教師のかかわりの温かさが感じとれた。このことから、子どもも困っている友達に自然に声をかけ、手を差し伸べられるようになった。また子どものよい場面だけでなく、課題であることもきちんと保護者に伝えられており、それをどのように高めてきたのか、丁寧に導いてきたかがよく分かり評価できる。 ○ 地域や人とのつながり、心のつながりを大切にしておられ、大切な経験を積み上げさせてもらっていると感じる。 ○ いつでも子どもたちと真剣に向き合ってくれた。先生方の取り組みや話を聞き、子どもを安心して任せられた。
		○連携の意義を明確にした交流や教職員間の協議の機会の充実		○ 今年度から、長尾中学校、山手台中学校ブロックの管理職の連携協議会を、新たに連携担当者を含めた会議に拡大し定期的に実施し、連携計画、振り返り、情報交換を行うことができた。 → 交流は積極的にできたが、めざす子ども像に迫る連携までには至っていない。できることからではあるが、ねらいを明確にした交流を目指していく必要がある。 ○ 新たに山手台小学校との連携を増やし、給食交流、運動会参観、授業参観、校庭で遊ぶなど展開し、地域の学校とのつながりが深まった。 「プレ1年生」は山手台小学校で開催し、1年生と5歳児が楽しいふれ合うことができ、小学校への期待や親しみにつながった。 ○ 初めて山手台中学校へ出かけ、合唱鑑賞をし、中学生とも交流を図ることができた。 ○ 小学校への学校見学や中学生のトライやるウィーク、また小学校からの栄養教諭、中学校から英語科教諭による出前授業を開催し、小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。	○ 山手台小学校、山手台中学校との新たな連携を考え、工夫して取り組んでいたことがとても評価できる。プレ1年生事業や研修、交流はもとより、給食交流や教師の授業交流もされ、人とのふれあいから育まれる気持ちなど経験させていただけたことがありがたかった。 ○ 公立幼稚園が減少する中、地域の核となって小学校や公私立保育園、幼稚園をつなぐ役割は大変大きい。地域的に複数校との連携は大変だと思うが、無理のないようにしてもらいながら、今後も取り組みを重ねていただきたい。 ○ 先生方はBと評価されていたが、架け橋プログラムの取り組みや近隣校との新たな連携等取り組みなど工夫されているため、Aが妥当だと思います。
課題教育	校種間の連携	○連携の意義を明確にした交流や教職員間の協議の機会の充実	A	○ 今年度から、長尾中学校、山手台中学校ブロックの管理職の連携協議会を、新たに連携担当者を含めた会議に拡大し定期的に実施し、連携計画、振り返り、情報交換を行うことができた。 → 交流は積極的にできたが、めざす子ども像に迫る連携までには至っていない。できることからではあるが、ねらいを明確にした交流を目指していく必要がある。 ○ 新たに山手台小学校との連携を増やし、給食交流、運動会参観、授業参観、校庭で遊ぶなど展開し、地域の学校とのつながりが深まった。 「プレ1年生」は山手台小学校で開催し、1年生と5歳児が楽しいふれ合うことができ、小学校への期待や親しみにつながった。 ○ 初めて山手台中学校へ出かけ、合唱鑑賞をし、中学生とも交流を図ることができた。 ○ 小学校への学校見学や中学生のトライやるウィーク、また小学校からの栄養教諭、中学校から英語科教諭による出前授業を開催し、小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。	○ 山手台小学校、山手台中学校との新たな連携を考え、工夫して取り組んでいたことがとても評価できる。プレ1年生事業や研修、交流はもとより、給食交流や教師の授業交流もされ、人とのふれあいから育まれる気持ちなど経験させていただけたことがありがたかった。 ○ 公立幼稚園が減少する中、地域の核となって小学校や公私立保育園、幼稚園をつなぐ役割は大変大きい。地域的に複数校との連携は大変だと思うが、無理のないようにしてもらいながら、今後も取り組みを重ねていただきたい。 ○ 先生方はBと評価されていたが、架け橋プログラムの取り組みや近隣校との新たな連携等取り組みなど工夫されているため、Aが妥当だと思います。
		○個別の教育支援計画・指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫		○ 園内研究会やカンファレンスを実施し、支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有することができた。 ○ 一人一人の興味や必要性に応じた有効なツールなど、教材研究を深め、適宜活用した。 ○ 療育施設と連携し、訪問指導の機会を捉えて情報共有をしたり、ふさわしい支援について協議したりすることができた。また発達支援センター、こばと聴覚支援学校との交流保育を実施し、貴重な交流の機会を増やすことができた。 ○ 今後も園内研究会の実施や研修会に積極的に参加し、専門的な知識を学び個に応じた具体的な援助につないでいく。	○ 個別の指導計画の作成、記録に努め、教師が、子ども一人一人の課題を共有していることが評価できる。また、支援のこどもにあった教材を作成し、楽しめる工夫を考えられているところが素晴らしい。先生方の努力には頭が下がる思いです。 ○ それぞれの特性を、的確に受け止めておられ、園全体でサポートしているので、子どもたちのかかわりも温かく、みんながつながっていることが感じられる。行事毎に支援の必要な子どもたちの成長が見られ、また、周りの子どもたちのかかわり方も変化し、大変感動した。

独自項目	地域特色を活かす	○「人・自然・文化」とのかかわりを大切にし、幼児の実体験を通してつながりを深める保育を推進	A	○ 長尾地域の特色やよさを子どもたちが知り、大切にしていこうとする気持ちが育めるよう、年間を通して保育の中に取り入れてきた。だんじり、お山での遊び、木接ぎ、野菜や花の栽培のための植木屋への買い物、餅つきやかまどでの煮炊き、消防署との交流など、自分たちで実際に体験する中で、人とのつながりを感じ、感謝する気持ちや地域を愛する気持ちが膨らんできている。	○ 保護者アンケートからも分かるように、今年度、人と自然と文化をつなぐ貴重な経験をたくさんさせてもらい、大変満足している。北側の山での遊びが、そのまま生活発表会で表現されたり、買い物に出かけ、自分で選んだ花を育てたり、地域ならではの保育をさせていただいて、大変評価できる。
	発達に即した保育	○子どものやりたい意欲を大切にし、ひとりひとりに添った保育の工夫 ○職員の組織力を高め、チームで保育に取り組む	A	○ 子どもの興味関心や想いに沿った保育をするために、子どもひとりひとりの楽しさや得手不得手、性格、成長と課題を丁寧にみとることが必要なため、日々の保育を多面的に見て、職員間での協議を重ねてきた。改まった会議だけでなく、記録を基にしたり、何気ない会話からも常に子どもの育ちについて話題にしたりし、次の日のスモールステップへとつなぐことができた。それぞれの立場の職員がそれぞれの立場から支援し、全員で保育にあたるチーム力、組織力が強くなった。	○ 研究の経過を聞いて、日々の先生方の取り組みや願い、カンファレンスなどを知り、びっくりすることばかりであった。保育で見えている部分と、見えないところでの仕事に、感謝の気持ちがこみ上げてくる。そのような研究や研修が、毎日の保育につながっていることを知り、頭が下がる思いである。 ○ このような取り組みの話をもっと保護者が聞いたりする機会があればよいと思う。 ○ 先生方は、しっかりチームになって保育のあたられていることが伝わっているので、評価できる。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 保護者や来賓に行事ごとにアンケートを取り集計をまとめており、意見や感想に対して1つ1つ丁寧に園の見解を載せている。また、評議員や来賓等、外部の意見も参考にしていることで適正に実施できている。

6 総合的な学校関係者評価

- 地域からも、保護者からも長尾幼稚園はとても活気があり、子どもたちを温かく育みとても信頼できる幼稚園であると評価していただいている。常に子ども主体で、子どもに寄り添いながら保育を進め、先生方の熱い意欲を感じる。中でも、昨年度に引き続き、人とのつながりを大切にし、地域や保護者と連携しながら開かれた幼稚園づくりをされていた。研究テーマでもある「やりたい気持ち」をしっかりと育んでいたと評価できる。また、毎日のホームページの更新、ドキュメンテーションに加え、ホワイトボードを使った新たなカンファレンスへの取り組みなど、先生方の努力に頭の下がる思いである。特別支援の必要な子どもへのかかわりでも、一人一人の課題に向き合い、教師間で連携され丁寧に対応されている。評価の中で「B」をつけられているところがあるが、園の取り組みや努力は素晴らしく、すべて「A」でよい。異校種との連携なども増加し、支援のお子さんも年々増加している中、幼児教育の質を高めるために取り組まれていることを聞いているだけでも、現場の仕事量が大変増えていることが想像できる。先生方においては、これからも一丸となって子どもたちを温かく育んでいただくとともに、くれぐれも無理のないよう時間管理と健康管理をしていただきたい。